

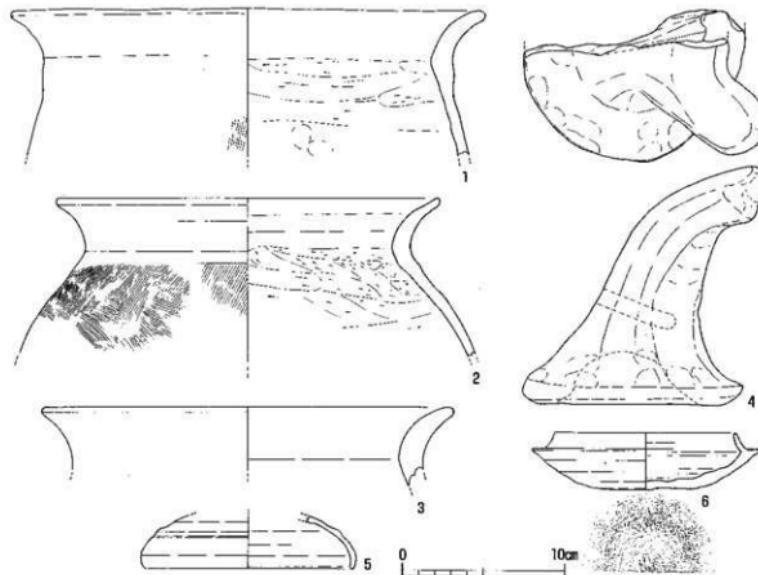
9は口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味にしている。10は高坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3方向に切り込みの透かしが入っている。11は坏身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施すが、底部外面は風化のため調整不明である。口縁部は内湾気味に伸び外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。一方、口縁部内側には小型のかえりを施す。かえり端部は尖らせている。12は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は風化のため調整不明であるが、付け高台を施している。器壁は外方に直線的に立ち上がる。

3. その他の出土遺物

第70～73図は排水路掘削時に出土した遺物である。北側排水路及び東側排水路は、S D03を切っていることから、S D03の搅乱遺物を多く含んでいる。

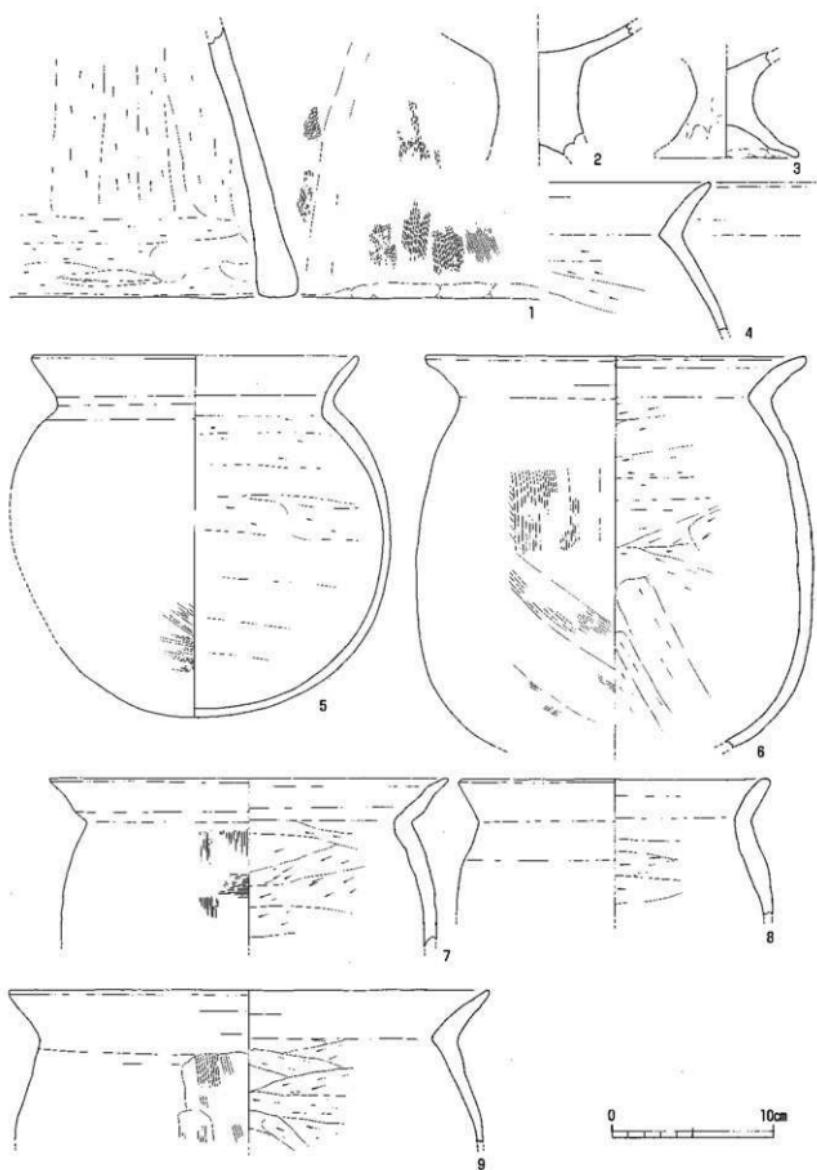
〈北側排水路出土遺物〉

第70図1～4は土師器である。1～3は壺で、1、2は口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。1は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は口縁部は外反しながら立ち上がった後内湾気味となり、端部は尖り気味に仕上げてい



第70図 北側排水路出土遺物

る。3は口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。4は土師支脚で、外面にヘラミガキ調整及び指頭圧痕を施す。底部に練込、側面に穿孔が施されている。5、6は須恵器である。5は坏蓋で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は天井部から内湾気味に伸び、外面に稜を作った後内湾する。端部は尖り気

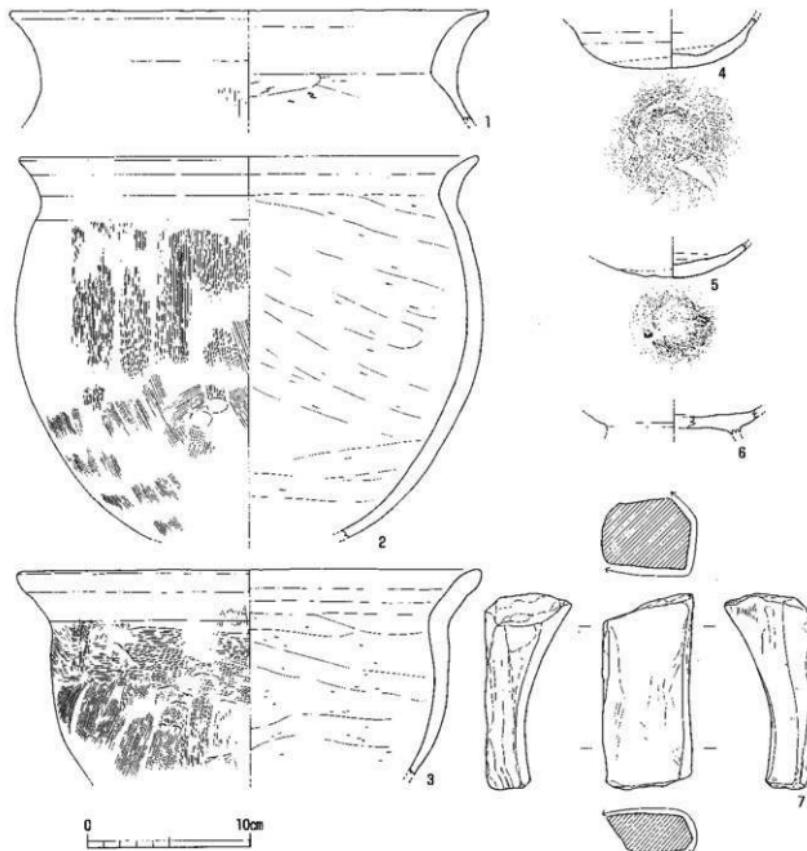


第71図 東側排水路出土遺物 1

味に仕上げている。6は坏身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整、底部外面に回転ヘラ切り調整後ナデ調整を施す。口縁部は外方に内湾気味に伸び外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。一方、口縁部内側にはかえりが施され、内傾後反り上がる。かえり端部は尖り気味にしている。

〈東側排水路出土遺物〉

第71図1～9は土師器である。1は瘤脚部で、内面にヘラケズリ調整、外面にハケ目調整を施す。柄の広がりは外方に直線的に広がり、端部を両側に肥厚させて平坦面を作っている。底部平坦面に整形台の痕跡が転写されている。2、3は高坏で風化が著しいものの、2は内外面ともにヘラミガキ調整を施しているものと推定される。脚部内面にはナデ調整を施す。器壁の立ち上がりは内湾気味である。3は脚部外面及び裾部内面に指頭圧痕が残る。脚部の広がりは裾部で内湾気味となり、端部は丸



第72図 東側排水路出土遺物 2

く仕上げている。4～9は蓋で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。また4～7、9は体部外面にハケ目調整が施されている。8は風化のため体部外面の調整は不明である。4、9は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。5は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。体部外面に煤が付着している。7は口縁部は外方に直線的に伸びるがやや括れている。端部は尖り気味に仕上げている。8は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

第72図1～3は土師器窓で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。また2、3は体部外面にハケ目調整が施されている。1は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖らせている。口縁部内外面に煤が付着する。2は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。外面に指頭圧痕が若干残る。3は外反気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。4～6は須恵器である。4、5は壊身で、口縁部内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面は回転ヘラ切り調整を施した後、ヘラ状工具痕を残す。内面見込は回転ナデ調整後ナデ調整を施している。4は口縁部でやや外傾し、5は器壁は内湾気味に立ち上がる。6は高台付窓で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部に高台を施している。7は砥石で、3面以上を砥面として利用している。

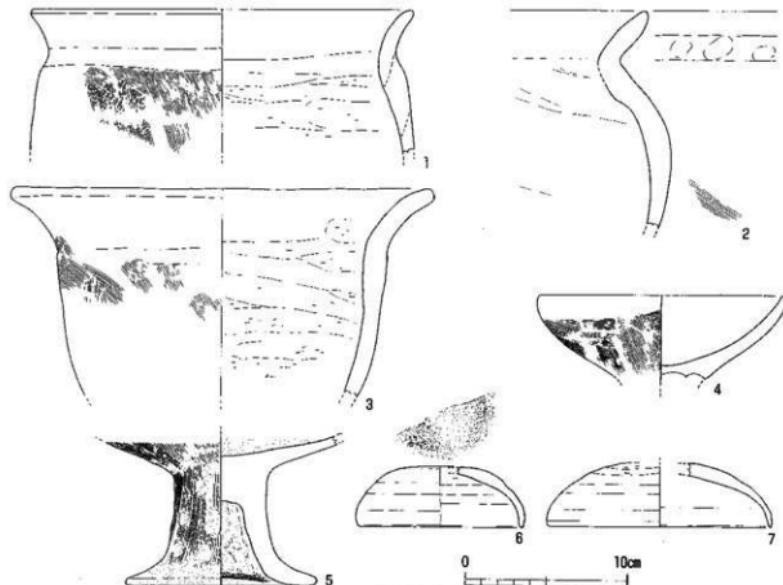
〈南側排水路出土遺物〉

第73図1は土師器窓で、口縁部内外面とともにナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。体部外面は風化が著しく詳細は不明である。



0 5 cm

第73図 南側排水路出土遺物



第74図 撹乱土出土遺物

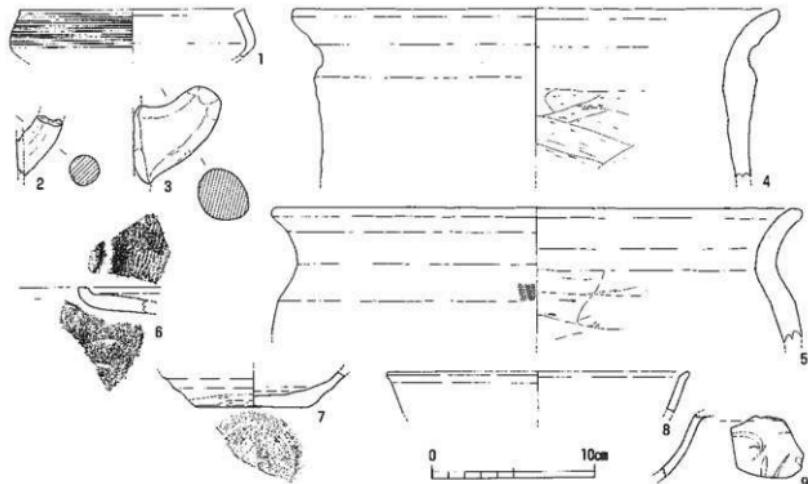
る。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖らせている。

〈搅乱土出土遺物〉

第74図は搅乱土上の出土遺物で、その多くはSD03上面が搅乱された時の遺物である。1～4は土師器である。1、2は壺で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。1は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。断面に粘土の接合痕が残る。2は口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。頸部に指頭圧痕が残る。3は瓶で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整、体部外面にハケ目調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部に平坦面を作る。4は高杯の器部で、口縁部内外面及び内面見込にナデ調整を施し、器部外面にハケ目調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。5は赤彩土器高杯で、器部内面にナデ調整、器部外面にハケ目調整及び指頭圧痕を施す。一方、脚部は内面にヘラケズリ調整及び指頭圧痕、外面にハケ目調整及び指頭圧痕、裾部内外面にナデ調整を施す。脚部の広がりは、裾部で外反し、端部は丸く仕上げている。6、7は須恵器壺蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部には回転ヘラケズリ調整を施す。立ち上がりは、6は天井部から内湾しながら伸びた後やや内傾し、端部で尖り気味に仕上げる。7は天井部から内湾しながら伸びた後やや外傾し、端部を尖らせている。

〈造成土出土遺物〉

第75図は造成土に含まれていた遺物である。1、2は弥生土器で、1は高杯である。内外面ともにナデ調整を施し外面に凹線を施す。口縁部は内傾し端部をやや肥厚させて平坦面を作っている。2は断面円形の把手で、外面にヘラミガキ調整を施す。3～5は土師器で、3は瓶の把手である。外面にヘラミガキ調整を施す。4、5は壺で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面にヘラケズリ調整を施す。



第75図 造成土出土遺物

体部外面は風化が著しく調整は不明である。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。6, 7は須恵器である。6は壺の口縁部で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面に車輪文。体部外面にタタキ状の痕跡を残す。口縁部は内傾し、端部に水平な平坦面を作っている。7は壺または袋物の遺物と考えられ、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラ切り調整の後ナデ調整を施している。8, 9は端反の青磁碗である。8は無文のもので、内外面ともに施釉し貫入が入る。口縁部は内湾気味に立ち上がった後外傾し、端部は丸く仕上げている。9は外面に施文するタイプで、内外面ともに施釉し、口縁部は内湾気味に立ち上がった後外反する。

〈暗渠排水出土遺物〉

第④層上面で暗渠を確認しているが、土地改良以前の暗渠排水と考えられることから遺物のみ図示する。

第76図1は一見土師器に見えるほど焼成の悪い須恵器壺である。内外面ともに回転ナデ調整、底部に回転ヘラ切り調整または回転ヘラケズリ調整を施している。器壁は内湾気味に立ち上がる。2は土師質土器小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に静止糸切痕を残す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖らせている。器壁と底部の界線は明確である。

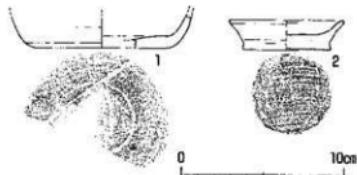
〈排土中出土遺物〉

第77図は排土中遺物である。1は壺または瓶で、口縁部内外面にナデ調整を施し、頸部下外面にハケ目調整、内側にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2, 3

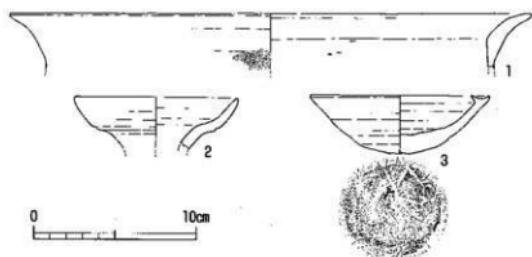
は須恵器である。2は壺の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は、外面に施された1条の沈線から内湾気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。3は壺身で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラ切り調整後ナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。一方、口縁部内側には小型のかえりが施され、かえり端部は尖らせている。

〈その他の出土遺物〉

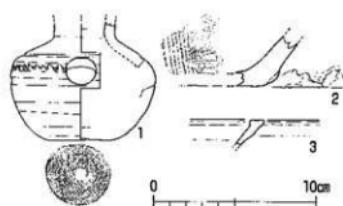
第78図はその他の出土遺物である。1は須恵器底である。体部の形状は肩が張るタイプで、外面は頸部から体部中程に回転ナデ調整を施し、底部に回転ヘラケズリ調整を施す。肩部下には波状文、穿孔が施されている。2は備前焼擂鉢である。内面はナデ調整後、6



第76図 暗渠排水出土遺物



第77図 排土中出土遺物



第78図 その他の出土遺物

条以上の描目を施すが、外面は風化のため調整不明である。3は瀬戸焼で卸皿と推定される。口縁部外面から口唇部内面に灰釉が施され貴人が入る。他は露胎としている。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を両側に肥厚させて水平な平坦面としている。

4.まとめ

古志遺跡は昭和47年の圃場整備の際に確認された遺跡である。この時に多量の布目瓦が確認されており、軒丸瓦の時期から9世紀頃と考えられている。

今回の調査地は圃場整備が実施された区域の東隣に位置している。布目瓦の出土量は遺跡全体で20片程度で、調査区内から礎石立ちの建物跡を検出していないことから、調査地から出土する布目瓦は、西側隣接地からの流れ込みと考えられる。

しかしながら調査区からは、直径1m程度の柱穴を持つ大型の掘立柱建物跡など7世紀後半から9世紀初の間の16棟の建物跡が確認されており、その平行関係から最大6群程度に分類することができる。このうちSB01（8世紀前半、N~28°~W）、SB07（8世紀前半、N~32°~W）、SB08（8世紀前半、N~27°~W）の群は古志本郷遺跡のI期神門都庁（8世紀前葉から中葉、N~32°~W）と建物の方向がほぼ平行関係にあり、神門都家との関係も考える必要がある。建物跡のうちSB04、SB07、SB08、SB09は柱根各1本の¹⁴C年代測定を実施しており、概ね土器、平行関係、層位から判断した時期と合致している。しかしSB08についてはやや古い値が出ており、この造構の柱については転用の可能性も考えられる。また遺物としては、瓶、土製支脚といった煮炊具が割合的に多く、今後充分に検討していく必要がある。

古志遺跡は古代瓦が出土する遺跡として知られていたが、発掘調査が行われていなかったため不明な点が多くあった。発掘調査により貴重なデータが得られたことは、今後、出雲平野の遺跡を研究するうえでの一助となるであろう。

第4章 考察—遺構の主軸方位から見た古志遺跡と古志本郷遺跡の関連性について—

古志遺跡からは7世紀後半～9世紀初の16棟の建物跡、5条の柵列などが検出されている。これらには径約1mを測る柱穴が含まれているほか、遺跡から円面鏡が出土していることから、官衙関連施設を考える必要がある。北側にある古志本郷遺跡は『出雲国風土記』に記載される神門郡家に比定されており、当遺跡との関連も推定される。両遺跡は9世紀中頃から14世紀の遺物が極めて少ないとなど共通点が多く、本稿では古志本郷遺跡検出遺構との比較のもと、古志遺跡検出遺構を検討してみた。

1. 古志本郷遺跡検出遺構について

古志本郷遺跡は以前より周知の遺跡で、昭和62年の第1次調査が実施されてから平成13年の第13次調査まで発掘調査が実施された。平成10～11年度に実施された第9～10次調査では奈良時代の都家関連建物群が確認され、『出雲国風土記』に記載される神門郡家に比定されている。

建物跡は郡庁の中心建物を形成する巨大建物遺構を筆頭に、約20～30m²規模の遺構が多い。これらの遺構の多くは遺物を伴わないため、遺物の年代は遺構の年代上限を示す資料として評価されており、遺構同士の切り合い、配置の規則性や主軸方位から総合的に判断した結果、下記の点が指摘されている。

- ① 建物の主軸方位はN～32°～42°～Wの角度を持つ群とN～0°～7°～Wの角度を持つ群の2群に大別される。
- ② ①の2群は概ねⅠ期遺構（8世紀前葉～後葉）、Ⅱ期遺構（8世紀後葉～9世紀前葉）にあたる
- ③ N～50°～89°～Wをなす建物が皆無。

2. 古志遺跡検出遺構について

古志遺跡は昭和47年の土地改良時に高塚久司氏が多量の古瓦を確認し、周知の遺跡となっている。出土した軒丸瓦の時期から遺跡の時期は9世紀頃と考えられていた。今回の調査区は周知の遺跡範囲外であった東側の部分であったが、北側の古志本郷遺跡（第3・4次）の調査結果から古志遺跡の一部と推定された。

建物跡は中心建物と考えられるSB01が40m²を超えるほかはいずれも30m²を下回り、大半が20m²以下の面積を測る（表1、第79図）。規模的には明らかに下回っていると言えよう。遺構の時期については遺物を伴わない遺構も多いが、遺構面上層及び下層から遺物が出土しており、遺構同士の切り合い、配置の規則性や主軸方位も参考に総合的に判断した。その結果、下記の点が指摘できる。

- ① 建物の主軸方位はN～27°～42°～Wの角度を持つ群（Ⅰ群）とN～0°～10°～Wの角度を持つ群（Ⅱ群）の2群のほか、N～15°～16°～Wの群（Ⅲ群）、N～21°～22°～Wの群（Ⅳ群）があり、前2群はそれぞれ2つの支群（Ⅰ-a群及びⅠ-b群、Ⅱ-a及びⅡ-b群）に分けられる（表2）。

- ② 群は時期的まとまりを示している可能性が高く、I-a群は古志本郷遺跡Ⅰ期遺構と、II-a群は同遺跡Ⅱ期遺構に対応する可能性がある。
- ③ 建物跡の一部は柱根の¹⁴C年代測定を実施している。測定の結果、概ね合致する成果を得たが、推定時期よりもやや古い値を示した遺構もあり（SB08）、転用材の可能性も考える必要がある。
- ④ N~36°~89°~Wをなす建物跡が皆無。

3. 両遺跡の関連について

古志本郷遺跡Ⅰ期遺構の主軸方向（N~32°~42°~W、領域A）は、旧山陰道の影響を受けている可能性が指摘されている。旧山陰道の位置については議論もあるが、現在の多伎江南出雲線（N~35°~W）付近に比定されると考えられている。これを基準とすると、古志本郷遺跡Ⅰ期遺構との誤差は最大±7°程度が考えられ（領域A~A'）、その領域はほぼI-a群とI-b群を併せた領域となる。I-b群は8世紀前半の結果を得ているので、両支群は古志本郷遺跡Ⅰ期遺構と並存していた可能性が高い。次に古志本郷遺跡Ⅱ期遺構の主軸方向（N~0°~7°~W、領域B）にI群と同程度の誤差を投影すると（中心軸N~3°30'~Wから±7°、領域B~B'）、II-a群とII-b群は包括される。但し両支群には切り合い関係が存在するため、若干の時期差が存在する。III群及びIV群については、古志本郷遺跡ではあまり見られない主軸方向を呈するが、検出棟数から小群の可能性が高い（第80図）。

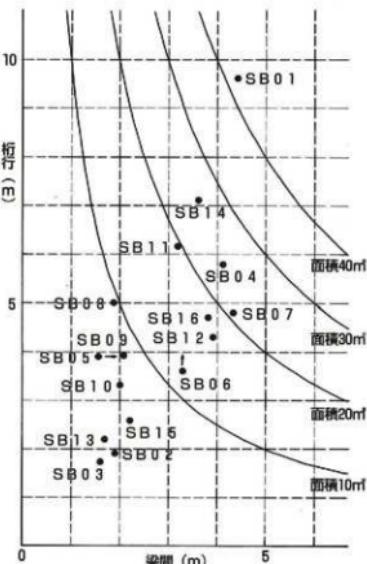
以上のことから、領域A~A'、領域B~B'はそれぞれ旧山陰道の影響を受けていた方位軸群と、旧山陰道の制約が少なくなり正方位を意識していた古志本郷遺跡Ⅱ期遺構に準ずる方位軸群を示し、古志遺跡の2大群であるI群及びII群についてもそれぞれに包括される。松尾充品氏が古志本郷遺跡の調査で指摘しているように、古志地区周辺では①旧山陰道の制約を受けた主軸方向→②正方位を意識した主軸方向といった規則性の上にグラウンドデザインされていたのであろう。

従って、両遺跡は主軸方位の上でもかなりの類似性が見られ、N~50°~89°~Wの建物跡が全く検出されないことでも共通している。同じ規則性の下で営まれた両遺跡は、距離的にも密接に関連した可能性が指摘できよう。建物規模から言えば明らかに古志本郷遺跡が上位に位置付けられ、古志遺跡には附属施設的役割を考える必要がある。出土遺物では移動式竈、土製支脚、瓶といった煮炊具が多く出土しており、厨屋的な施設なども考える必要があろう。しかしながら当遺跡は、古志本郷遺跡北側に所在する郡庁比定地から約900mの距離があり、厨屋としては遠過ぎるとの問題も指摘されている。郡家の役人の居住域であった可能性も考えられる。古志遺跡の範囲は調査区外へさらに広がることが推定されることから、今後の資料の増加を待って改めて検討することとしたい。

掘立柱建物面積

群	遺構名	桁行	梁間	面積
II-a群	SB14	7.1	3.6	25.6
	SB16	4.7	3.8	17.9
II-b群	SB03	1.7	1.6	2.7
	SB11	6.2	3.2	19.8
III群	SB04	5.8	4.1	23.8
	SB05	3.9	1.6	6.2
	SB09	3.9	2.1	8.2
	SB12	4.3	3.9	16.8
IV群	SB06	3.6	3.3	11.9
	SB10	3.3	2.0	6.6
I-b群	SB08	5.0	1.9	9.5
	SB01	9.6	4.4	42.2
I-a群	SB07	4.8	4.3	20.6
	SB13	2.2	1.7	3.7
	SB02	1.9	1.9	3.6
	SB15	2.6	2.2	5.7

表1 掘立柱建物平面プラン



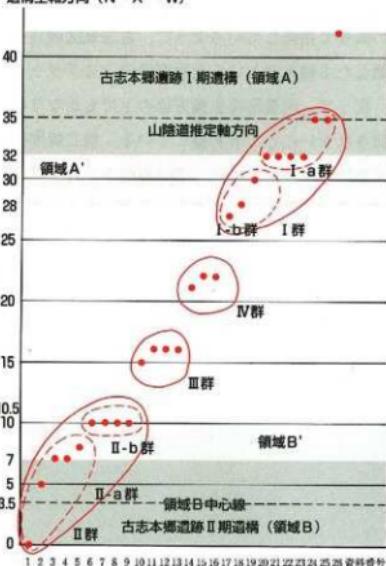
第79図 掘立柱建物平面プラン分布図

群	遺構名	遺構主軸方向 (N~X'~W)	遺構の時期	¹⁴ C 分析結果	資料 番号
II-a群	II期都家	0	8c前後~9c初		1
	SB14	5	7c後~9c初		2
	SA03	7	7c後~9c初		3
	II期都家	7	8c前後~9c初		4
	SB16	8	7c後~9c初		5
II-b群	SB03	10	8c~9c初		6
	SB11	10	8c~9c初		7
	SA02	10	8c~9c初		8
	SA04	10	8c~9c初		9
III群	SB04	15	7c後~9c初	7c後	10
	SB05	16	7c後~9c初		11
	SB09	16	7c後~9c初	7c後or8c中	12
IV群	SB12	16	7c後~9c初		13
	SA01	21	7c後~9c初		14
	SB06	22	7c後~9c初		15
I-b群	SB10	22	7c後~9c初		16
	SB08	27	8c前	7c後	17
	SB01	28	8c前		18
I-a群	SA05	30	8c前		19
	I期都家	32	8c前後~後素		20
	SB07	32	8c~9c初	7c後or8c中	21
	SB13	32	8c~9c初		22
	SB15	32	8c~9c初		23
	SB02	35	8c~9c初		24
	推定山陰道	35			25
	I期都家	42	8c前後~後素		26

表2 遺構主軸方向

※番号については南北方向に補正

遺構主軸方向 (N~X'~W)



第80図 遺構主軸方向分布図

第5章 古志遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

古志遺跡は島根県中央部、出雲市古志町地内に位置し、神戸川の成す扇状地上に立地する遺跡である。

本報は、遺跡近辺の植生復元および遺構の時期確定を目的として、出雲市（出雲市文化財室）が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した、花粉分析およびAMS年代測定報告書の概報である。

分析試料について

図1に、花粉分析用試料およびAMS年代測定用試料の採取地点を示す（図1に「SB〇〇-〇」とした4地点が、AMS年代測定用試料とした柱根を採取した柱穴の位置である）。また、花粉分析用試料採取地点の堆積相および試料採取層準を図2の花粉ダイアグラム中、左側の柱状図に示す。

分析方法および分析結果

(1) 花粉分析

処理は渡辺（1995）に従って行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、イネ科花粉を中村（1974）に従い、イネを含む可能性の高い大型のイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性の低い小型のイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

分析結果を図2の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示した。また右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

(2) ¹⁴C年代測定

AMS法を用いた。測定結果を表1に示す。今回得られたAMS年代測定値はすべて、7世紀後半の層年代較正値を示し、発掘調査の成果と一致する。

詳細に検討すると、7世紀後半を示す一群（SB04-8、SB08-5）と、7世紀後半あるいは8世紀中頃を示す一群（SB07-5、SB09-4）に別れ、2時期の建物群に分かれる可能性も指摘できる。

花粉分帶

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花

粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料Noも下位から上位に向かって記した。

(1) II带（試料No4）

マツ属（複雑管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属が高率を示し、スギ属、クマシデ属—アサダ属を伴う。

(2) I带（試料No3~1）

マツ属（複雑管束亜属）が卓越する。スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う下位（試料No3、2）のb亜帯と、スギ属、コナラ亜属を伴う上位（試料No1）のa亜帯に細分できる。

近隣の花粉分析結果との比較

古志遺跡近辺の下古志遺跡では、従来より花粉分析が実施・報告されている（渡辺、2001）。渡辺（2001）は18地点で花粉分析を実施し、I～III带の局地花粉帯を設定した。ここでは、II带を除きマツ属（複雑管束亜属）が卓越し、スギ属も比較的高率で出現している。今回分析対象とした試料の堆積時期は古代、中世、近世以降であり、渡辺（2001）の時期にはほぼ重なる。

II带（今回設定の局地花粉帯を以下同様に表記する）ではアカガシ亜属、コナラ亜属、マツ属（複雑管束亜属）が特徴的に検出されることから、W-II带（渡辺（2001）で設定された局地花粉帯を以下同様に表記する）に相当する可能性がある。

I带がW-I带に相当すると考えられる。亜帯レベルで考えた場合、I带 b亜帯から a亜帯への、マツ属（複雑管束亜属）、スギ属の増加、アカガシ属の減少の傾向はW-I带 b亜帯内（B区 S D49地点）で認められる。また、W-I带 a亜帯で認められるアブラナ科花粉の高率出現は、ナタネ栽培に由来すると考えられ、現地性が強いことから、W-I带 a亜帯が、b亜帯に含まれる可能性もある。

今回設定した局地花粉帯と古志遺跡で設定した局地花粉帯との対応関係は、表2のようにまとめられる。

古環境変遷

(1) II带期（7世紀頃）

1) 周辺地域の植生

渡辺（2001）はW-III带の花粉組成から推定される植生を、「遺跡の南から東に広がる中国山地縁辺の丘陵にアカマツを要素とする二次林が分布していた。」あるいは、「クロマツ海岸林が広く分布していた。」としている。ただし、明記していないものの、双方同時に存在した可能性を否定したわけではない。一方W-III带からW-II带への移行は、下古志遺跡のT2試掘調査（文化財調査コンサルタント株式会社、2001）で認められており、その原因を「アカマツ林の照葉樹林への遷移、および砂州の発達に伴うクロマツ海岸林の西進と肥沃化に伴う照葉樹林への遷移により、出雲平野南側の丘陵、西側の浜山砂丘に照葉樹林が広がった。」と考えている。

したがって、この時期には出雲平野南側の丘陵、西側の浜山砂丘に照葉樹林が広がったと考えられる。

2) 調査地近辺の植生

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高いものの、他の草本花粉の出現率も同程度、あるいはそれ以上に高い出現率を示す。「雑草」の量が多いことと、イネ科（40ミクロン以上）花粉が必ずしもイネを示すものでないことから、直ちに調査地点近辺での稻作を推定するには難がある。しかし、試料採取層準が水平堆積をし、広い範囲で分布することから、試料採取層準が耕作上層であった可能性が指摘できる。

(2) I 帯期（古代～近世以降）

1) 周辺地域の植生

マツ属（複維管束亞属）が卓越し増加傾向を示すことから、アカマツ林（いわゆる「里山」、「薪炭林」）が周辺地域で分布を広げていったと考えられる。草本花粉の割合が高く、遺跡近辺に森林が迫っていたとは考えにくいことから、アカマツ林は遺跡南～東に広がる丘陵から中国山地縁辺部にかけて分布していたと考えられる。また、「園の松原」や浜山丘陵にはクロマツ海岸林、鳥根半島にはアカマツ林が分布していた可能性が高い。

出雲平野内の多くの地点では、スギ属が鎌倉時代頃まで高い出現率を示す傾向にあるが、今回の古志遺跡あるいは既知の下古志遺跡の結果ではこの傾向がほとんど認められず、遺跡近辺にスギの分布が少なかったことが分かる。

2) 遺跡近辺の植生

イネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が高く、遺跡内には水田が広がっていたと考えられる。また、上部の2試料でソバ属花粉が出現し、裏作、あるいは畦などを用いてソバ栽培が行われていたことが判る。

まとめ

AMS年代測定結果から、建物群が7世紀後半のものであることが明らかになった。ただし、7世紀後半と8世紀中頃の2時期の建物群であった可能性もある。

花粉分析を実施した結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 花粉分析結果から、本地域の花粉化石群集をI、II帯の2花粉帯に分帶し、I帯をさらにa、b亜帯に細分した。
- (2) 古代から近世頃の遺跡周辺の古植生変遷を推定した。
- (3) 調査地点近辺では7世紀頃には稻作が行われていた可能性が高い。

引用文献

- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として、第四紀研究、13,187-197。
渡辺正巳（1995）花粉分析法、考古資料分析法、84、85、ニュー・サイエンス社
渡辺正巳（2001）下古志遺跡発掘調査に伴う花粉分析等調査、一般県道多伎江南出雲線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書下古志遺跡－本編－、472-485、出雲市教育委員会、鳥根県。

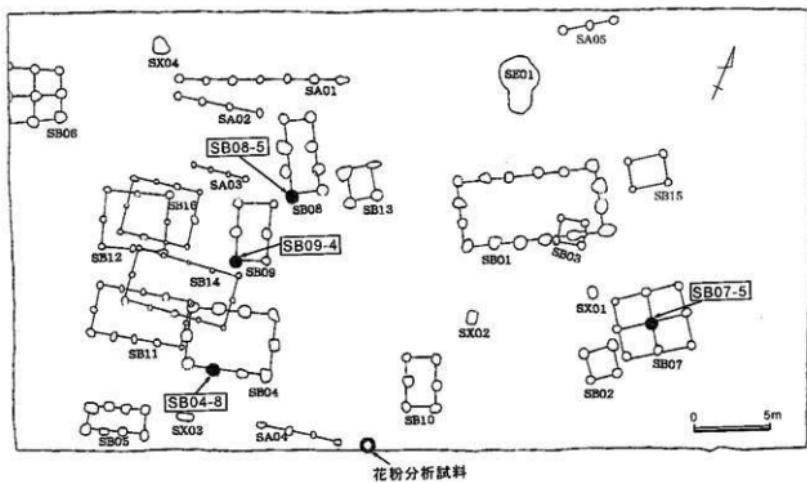


図1 遺構配置および試料採取地点

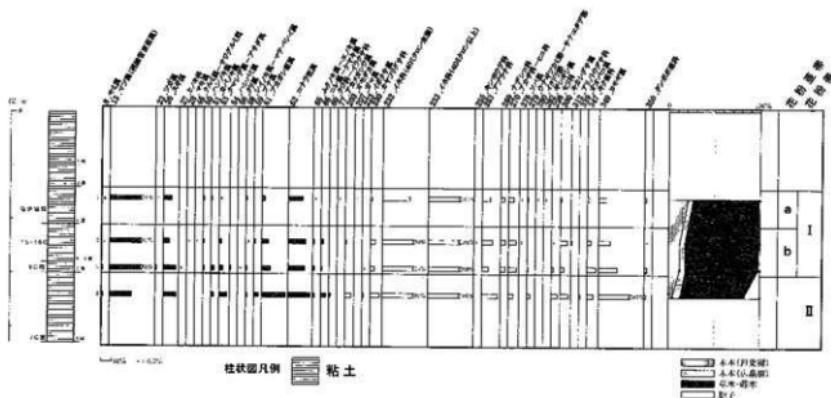


図2 花粉ダイヤグラム

表 1. AMS年代測定結果

試料No	測定年代	$\delta^{14}\text{C}$	補正 ^{14}C	暦年代 ^{*1}	測定番号
	(yBP)	(‰)	(yBP)	(cal y.)	(PLD-)
S B 04-8	1390±40	-24.3	1405±40	AD560-690	2601
S B 07-5	1385±40	-27.1	1350±40	AD635-730 AD735-775	2602
S B 08-5	1460±40	-27.3	1425±40	AD555-670	
S B 09-4	1410±40	-28.9	1345±40	AD635-730 AD735-775	2604

^{*1}: 2σ

表 2. 古志遺跡と下古志遺跡での各局地花粉帯の関係

下古志遺跡 (渡辺,2001)		古志遺跡 今回の結果		花粉組成の特徴	
花粉帯	堆積時期	花粉帯	堆積時期	花粉帯	亜帯
I	a 現代	I	a 近世以降 15・16C b ~ 9C	Diplo. >Crypto.	Cruci. Gra(>40)
	b 中世 ~				Gra(>40)
	奈良平安				
II	奈良平安	II	7C	Cyclo.>Diplo., Crypto.,Quer.	
	古墳初頭			Diplo.	Grass
III	a ~			>Crypto.	
	b 弥生末				

Diplo.:マツ属(複維管束亜属)、Crypto.:スギ属、Cyclo.:アカガシ亜属、Quer.:コナラ亜属
 Cruci.:アブラナ科、Gra(>40):イネ科(40ミクロン以上)、Grass:草本花粉

出土遺物観察表（土器類）

種類番号	写真	出土地点	種別	製程	口径	底径	高さ	手法の特徴		備考
								内	外	
10-1	図版19	S D 0 2	弥生土器	壺				ナデ	ナデ	口縁部に2条の壓凹線
-2	〃	S D 0 2	須恵器	环身				回転ナデ	回転ナデ	
-3	〃	S D 0 2	須恵器	环			(9.4)	回転ナデ	回転ナデ	底部付高台
-4	〃	S D 0 2	須恵器	壺				回転ナデ	回転ナデ	外面に刺文、穿孔、2条の沈線
-5	〃	S D 0 2	須恵器	高坏			(8.5)	回転ナデ	回転ナデ	
-6	〃	S D 0 2	陶器	壺	(13.1)			内・施釉	外・施釉	
-7	〃	S D 0 2	肥前系磁器	壺			(4.1)	内・施釉	外・施釉、露胎	高台外側周辺に染付 内面見込に蛇ノ目輪ハギ
11-1	〃	S D 0 1	須恵器	环身	(12.0)			回転ナデ	回転ナデ	
-2	〃	S D 0 1	須恵器	壺				回転ナデ	回転ナデ、西輪ヘラ、ナデ	体部中程で把手が珠文状に形態化
12-1	〃	S D 0 6	土師器	壺				ナデ、ヘラケズリ	ナデ	
-2	〃	S D 0 6	土師器	壺				ナデ	ナデ	
-3	〃	S D 0 6	土師器	高坏				不明	不明	底部に円盤先頭
-5	〃	S D 0 6	須恵器	环身	(13.0)			内・回転ナデ	外・回転ナデ、回転ヘラ	
-6	〃	S D 0 6	須恵器	高坏	17.4	(11.6)	12.7	内・回転ナデ	外・回転ナデ	腹間に2条の沈線及び1条の沈線、2段2方向の透かし（上段腰形、下段台形）
14-1	〃	S D 0 3	弥生土器	壺		8.0		内・不明	外・不明	
-2	〃	S D 0 3	土師器	壺				ナデ、ヘラケズリ	ナデ	
-3	〃	S D 0 3	土師器	壺				ナデ	ナデ	
-4	〃	S D 0 3	土師器	壺				ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-5	〃	S D 0 3	土師器	壺	18.4			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-6	〃	S D 0 3	土師器	壺	(18.0)			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-7	〃	S D 0 3	土師器	壺	(22.8)			ナデ	ナデ	口縁部内面にハケ目？
-8	図版20	S D 0 3	土師器	壺	20.2			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-9	〃	S D 0 3	土師器	壺	21.8		(25.3)	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-10	〃	S D 0 3	土師器	壺	23.8		26.8	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	頸部に粘土の接着痕
-11	〃	S D 0 3	土師器	壺	26.5			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
15-1	〃	S D 0 3	土師器	壺	24.6			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-2	〃	S D 0 3	土師器	壺	(22.6)			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-3	〃	S D 0 3	土師器	壺	24.5			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-4	図版21	S D 0 3	土師器	壺	19.5		24.3	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	口縁部外面及び体部外面に多量の爆付並
-5	図版20	S D 0 3	土師器	壺	(27.4)			ナデ	ナデ	爆付の可能性もあり
-6	〃	S D 0 3	土師器	壺	(25.6)			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	頸部外面及び肩部外面の間に界線
-7	図版21	S D 0 3	赤彩土器	壺	16.7			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	口縁部内外面及び体部外面に素影
-8	〃	S D 0 3	土師器	壺	29.6			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	口縁部外面のナデ調節が極い
-9	〃	S D 0 3	土師器	壺	23.5		20.3	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-10	〃	S D 0 3	土師器	壺	26.1		32.7	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-11	〃	S D 0 3	土師器	壺	(21.0)			ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	
-12	〃	S D 0 3	土師器	壺	17.9		15.2	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	

埋蔵番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
15-13	図版22	S D O 3	土師器	甌	26.7			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	口縁部外面及び体部外面に 焼付着
-14	図版21	S D O 3	土師器	甌	(32.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-15	図版22	S D O 3	土師器	甌	(31.5)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-16	//	S D O 3	土師器	甌	26.5			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-17	//	S D O 3	土師器	甌	12.8			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
16-1	//	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、指 頭圧痕	
-2	//	S D O 3	土師器	甌				外：ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕	
-3	//	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、指頭圧痕、ハケ目	
-4	図版23	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	外側に底の貼付痕
-5	//	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	底部平坦面に成形台の痕跡
-6	図版22	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	底部平坦面に成形台の痕跡
-7	図版23	S D O 3	土師器	甌	(30.8)			内：ナデ、ヘラケズリ、ハケ目 外：ナデ	
-8	//	S D O 3	土師器	甌				内：ナデ、ヘラケズリ、ハケ目 外：ナデ	
-9	//	S D O 3	土師器	甌	15.2		5.5	内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ、指頭圧痕、ハケ目	
-10	//	S D O 3	土師器	高环		14.0		内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-11	//	S D O 3	土師器	高环		12.0		内：ナデ 外：ナデ	被部外面に1条の棱
17-1	//	S D O 3	土師器	甌	(14.6)			内：ハケ目、ヘラケズリ 外：ハケ目	被部外側赤焼
-2	//	S D O 3	土師器	甌	29.5	11.0	25.0	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	被部2方向に穿孔
-3	//	S D O 3	土師器	甌		12.4		内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	被部2方向に穿孔
-4	//	S D O 3	土師器	甌	(31.8)	(14.0)	26.1	内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	被部に穿孔
-5	図版24	S D O 3	土師器	甌	31.6		23.0	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-6	//	S D O 3	土師器	坏	13.1		4.0	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	
-9	//	S D O 3	土師器	坏	16.5		5.0	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-10	//	S D O 3	赤彩土器	坏	18.0		7.7	内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内側に暗文 外側に赤彩
-11	//	S D O 3	赤彩土器	高环	(18.2)			内：ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：ヘラミガキ、指頭圧痕、ハケ目	器部内腹見込中央凹む 外側に赤彩
-12	//	S D O 3	赤彩土器	高环	(15.1)	(9.7)	10.9	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、指頭圧痕	内側に赤彩
-13	//	S D O 3	赤彩土器	高环	16.4			内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩
-14	//	S D O 3	赤彩土器	高环	15.8	10.7	12.3	内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩
-15	//	S D O 3	赤彩土器	高环	16.0	12.1	12.0	内：ナデ 外：ナデ	被部外面にハケ目及び1 角の沈線
-16	図版23	S D O 3	赤彩土器	高环	(16.9)			内：ナデ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	内外面に赤彩 内外面に赤彩
-17	図版24	S D O 3	赤彩土器	高环				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、指頭圧痕	被部外面に1条の沈線 器部外側・脚部外側に赤彩
-18	//	S D O 3	赤彩土器	高环				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕	器部外側及び脚部外側に赤彩 器部内腹見込へラミガキの可能性 性あり
-19	//	S D O 3	須恵器	甌or 高环	(12.3)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	外側にヘラ状工具痕
-20	//	S D O 3	須恵器	甌				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部上に波文及び1条の 沈線
-21	//	S D O 3	須恵器	坏甌	(11.7)		(4.1)	内：回転ナデ、回転ヘラ 外：回転ナデ、ナデ	脚部内側に1条の沈線 脚部外側に1条の棱
-22	//	S D O 3	須恵器	坏身	12.2		4.0	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-23	//	S D O 3	須恵器	坏身	12.2		4.4	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、四輪ヘラ切り	

神社番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	手法の特徴	備考
17-24	図版24	S D 0 3	須恵器	环身 坏身	(11.6)		(3.4)	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-25	"	S D 0 3	須恵器	高坏	(15.0)	(10.7)	10.7	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	脚部外側に1条の沈線 脚部2方向に三角透かし
-26	"	S D 0 3	須恵器	高坏		(9.6)		内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	脚部2方向に脚状透かし
-27	"	S D 0 3	須恵器	高坏				内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	脚部3方向に透かし
-28	"	S D 0 3	須恵器	高坏			(10.0)	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	脚部2方向に台形透かし
-29	"	S D 0 3	須恵器	高坏		(14.4)	10.2	瓦質土器の可能性あり 外: 回転ナデ	瓦質土器の可能性あり 被覆外側に飛絶状工具痕 脚部内面に製作者の指紋
18-1	図版25	大溝01	土師器	壺or 瓶				内: ナデ 外: ナデ	
-2	"	大溝01	土師器	壺or 瓶				内: ナデ、ヘラケズリ 外: ナデ、ハケ目	
-3	"	大溝01	土師器	甕				内: 滑度不明 外: 滑度不明	
-5	"	大溝01	赤彩土器	高坏			(12.0)	内: ナデ 外: ナデ	外面に赤彩が少留残る
-6	"	大溝01	須恵器	环		(11.0)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-7	"	大溝01	須恵器	甕				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	体部に穿孔 体部外側に刻文及び2条の沈線
20-1	"	S B 0 1	土師器	壺or 瓶				内: ナデ 外: ナデ	
-2	"	S B 0 1	土師器	壺or 瓶				内: ナデ、ヘラケズリ 外: ナデ	
-3	"	S B 0 1	赤彩土器	高坏		(14.3)		内: ナデ 外: ナデ	内面に赤彩残る
24-1	"	S B 0 4	土師器	壺		(15.6)		内: ナデ 外: ナデ	
-2	"	S B 0 4	須恵器	环身		(13.5)		内: 西化ナデ 外: 西化ナデ	外面に自然釉付箇
-3	"	S B 0 4	須恵器	高坏			(10.8)	内: 西化ナデ 外: 西化ナデ	
28-1	"	S B 0 5	須恵器	环身		(10.8)		内: 西化ナデ 外: 西化ナデ	
29-1	"	S B 0 6	須恵器	坏				内: 西化ナデ 外: 西化ナデ	
-2	"	S B 0 6	須恵器	坏				内: 西化ナデ 外: 西化ナデ	
-3	"	S B 0 6	須恵器	坏				内: 西化ナデ 外: 西化ナデ、回転ヘラ	
31-1	"	S B 0 8	弥生土器	壺		(6.6)		内: ナデ 外: ナデ、指戳圧痕	
-2	"	S B 0 8	須恵器	环盖		(13.3)	(4.9)	内: 西化ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	肩部外側に2条の沈線
-3	"	S B 0 8	須恵器	坏身				内: 西化ナデ 外: 回転ナデ	
-4	"	S B 0 8	須恵器	高坏			(10.4)	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	脚部に透かしあり
35-1	"	S B 1 1	須恵器	环		(9.4)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-2	"	S B 1 1	須恵器	把手付 瓶				内: 西化ナデ 外: 回転ナデ	肩部と体部の間に界線 肩部～体部に粘土結の把手
37-1	"	S B 1 2	土師器	壺				内: ナデ 外: ナデ	
39-1	"	S B 1 3	須恵器	坏身				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
42-1	"	S B 1 5	赤彩土器					内: ナデ 外: ナデ	赤彩あり
45-1	"	S A 0 1	弥生土器	壺or 瓶				内: ナデ 外: ハケ目	
50-1	"	S E 0 1	赤彩土器	壺				内: ナデ 外: ナデ	内面に赤彩
-2	"	S E 0 1	土師器	壺		(16.4)		内: ナデ 外: ナデ	
-3	"	S E 0 1	土師器	壺		(14.4)		内: ナデ、ヘラケズリ 外: ナデ、ハケ目	
-4	"	S E 0 1	土師器	壺				内: ナデ、ヘラケズリ 外: ナデ	肩部外側にヘラ状工具痕
-5	"	S E 0 1	土師器	壺				内: ナデ 外: ハケ目、指戳圧痕	瓶蓋に粘土結の接合痕
-6	"	S E 0 1	須恵器	壺		(10.2)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	

辨認番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	手法の特徴	備考
50-7	図版25	S E 01	須恵器	高环				内：回転ナデ 外：回転ナデ 内：ヘラミガキ、ヘラケズリ 外：調整不明	脚部に透かしあり
52-1	図版26	S X 0 4	土師器	罐				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	底を体部に後付
-2	"	S X 0 4	土師器	罐				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	"	S X 0 4	土師器	罐				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部に透かしあり
-4	"	S X 0 4	須恵器	高环				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
53-1	図版25	S X 0 5	須恵器	高环	(16.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
54-1	図版26	第2層	須恵器	罐		(8.5)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	口縁部外側下に1条の縦
-2	"	第2層	須恵器	环		(9.5)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底面に静止糸切後、付け高台
-3	"	第3層	白磁	碗	(10.3)			内：施釉 外：施釉	口縁部端部口元
-4	"	第3層	青磁	碗	(13.6)			内：施釉 外：施釉	外面上に墨文
-5	"	第3層	青磁	碗	(15.3)			内：施釉 外：施釉	外面上に墨文
-6	"	第3層	備前焼	罐				内：ナデ 外：ナデ	口縁部玉縁状
-7	"	第3層	在地土器	火鉢or 香炉	(14.7)	(13.8)	4.0	内：回転ナデ 外：ヘラミガキ、スタンプ文	
-8	"	第3層	青花	小皿	(9.4)	(4.4)	2.3	内：施釉 外：施釉、露胎	外面上に墨文 内外面染付 高台費付鉢ハギ
-9	"	第3層	肥前系陶器	罐		(3.9)		内：施釉 外：露胎	内外面見込歎口目構 底部削り出し三日月高台
55-1	"	第3層	須恵器	环		8.4		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	底面付け高台
-2	"	第3層	青磁	碗		(5.1)		内：施釉 外：施釉、露胎	周安窯系 釉薬買入る、底部露胎
-3	"	第3層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	内外面見込に施文 外面上に墨文
-4	"	第3層	在地土器	火鉢or 香炉		(13.6)		内：回転ナデ 外：ヘラミガキ、スタンプ文	
56-1	"	第4層	弥生土器	壺				内：ナデ 外：ナデ	口縁部端部及び口縁部内面 に各2条の凹線
-2	"	第4層	弥生土器	壺or 瓶				内：ナデ 外：ナデ	口縁部端部及び口縁部内面 に各1条の凹線
-3	"	第4層	土師器	壺or 瓶		(26.2)		内：ナデ 外：ナデ	
-4	"	第4層	須恵器	环		7.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部回転糸切後、付け高台 肩部形態が横円状に再加工
-5	"	第4層	土師質土器	小皿				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-6	図版27	第4層	白磁	水注	(13.0)			内：施釉 外：施釉	釉薬買入る 底焼財？
-7	"	第4層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	無文端反旋
-8	"	第4層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	外面上に墨文
-9	"	第4層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	釉薬買入る 外面上に彰化した蓬文
-10	"	第4層	青磁	碗		(5.2)		内：施釉 外：施釉、露胎	高台費付及高台見込露胎 内外面見込に施文
-11	"	第4層	瓷器系陶器	壺or 瓶				内：ナデ、指痕压痕	外面上に自然露付
-12	"	第4層	瓷器系陶器	壺				内：ナデ、指痕压痕	下部に1 条の縦、横には自然露付 外面上に露印？及び把手の痕
-13	"	第4層	備前焼	罈				内：ナデ 外：ナデ	胎土っぽ透光焼成 内間に擦目、外間に重ね焼 痕
-14	"	第4層	備前焼	罈				内：ナデ、指痕压痕 外：調整不明	注口あり
-15	"	第4層	中国磁器	天目 茶碗		3.1		内：施釉（鉄釉） 外：施釉（鉄釉）、露胎	肩部外間に多量の自然露付 着
-16	"	第4層	京焼風陶器	环		(4.3)		内：施釉 外：施釉、露胎	底部削り出し高台
-17	"	第4層	肥前系陶器	狸林				内：施釉/ 外：露胎/回転ヘラ	釉薬買入る 高台費付及び高台見込露胎
-18	"	第4層	肥前系陶器	碗	(10.0)			内：施釉 外：施釉	口縁部端部ハギ 外面上に染付

辨認番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴		備考
								内: 路地 外: 路地	内: ナデ 外: ナデ	
56-19	図版27		第④層	磁器	瓶					青磁の2次焼成の可能性あり
-20	"	第⑤層	磁器	瓶		(3.4)		内: 路地 外: 路地	内: ナデ 外: ナデ	
57-1	"	第④-1層	弥生土器	壺				内: ナデ 外: ナデ	内: ナデ 外: ナデ	口縁部端部に1条の凹線
-2	"	第④-1層	弥生土器					内: ナデ、ハケ目 外: ナデ	内: ナデ 外: ナデ	口縁部端部に斜格子文
-3	"	第④-1層	弥生土器	基台				内: ハラケズリ 外: ナデ	内: ハラケズリ 外: ナデ	
-4	"	第④-1層	土師器	瓶				内: 調整不明 外: ハラミガキ	内: 調整不明 外: ハラミガキ	把手
-5	"	第④-1層	土師器	高环			(8.7)	内: 調整不明 外: ハラミガキ	内: 調整不明 外: ハラミガキ	脚柱内面に穿孔
-6	"	第④-1層	土師器	高环				内: 調整不明 外: 調整不明	内: 調整不明 外: 調整不明	
-11	"	第④-1層	土器類	製塙土器				内: ナデ、指頭圧痕	内: ナデ	
-12	"	第④-1層	赤彩土器	高环				内: 調整不明 外: ハカ目	内: 調整不明 外: ハカ目	外面に赤彩
-13	"	第④-1層	赤彩土器	高环				内: 調整不明 外: 調整不明	内: 調整不明 外: 調整不明	外面に赤彩
-14	"	第④-1層	須恵器	环身	(9.9)		3.0	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ切り	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	馬平宝珠状摘み貼付
-15	"	第④-1層	須恵器	壺	(11.0)		2.1	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-16	"	第④-1層	須恵器	壺				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-17	"	第④-1層	須恵器	壺	(17.4)			内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	天井部内外面削除焼成
-18	"	第④-1層	須恵器	壺		(12.2)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	底部外側回転系切後、付け高台、高台端部に1条の沈線
-19	"	第④-1層	須恵器	壺	(13.2)	(9.0)	3.8	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-20	"	第④-1層	須恵器	壺	(16.0)			内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-21	"	第④-1層	須恵器	壺	(14.0)			内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-22	"	第④-1層	須恵器	壺				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-23	"	第④-1層	須恵器	壺		(9.7)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ切り	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-24	"	第④-1層	須恵器	壺	(15.0)	(11.3)	2.1	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ切り	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ切り	
-25	"	第④-1層	須恵器	壺	(19.2)	(15.2)	2.2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
-26	"	第④-1層	須恵器	平瓶				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	ミニチュア土器
56-1	"	第④-1層	須恵器	壺or 甕				内: ナデ、指頭圧痕 外: ナデ	内: ナデ、指頭圧痕 外: ナデ	
-2	"	第④-1層	須恵器	甕				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	瓶底内面に絞り痕 外面上に3条以上の沈線
-3	"	第④-1層	須恵器	甕				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	接合痕残る
-4	"	第④-1層	須恵器	甕		5.8		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、カキ目	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、カキ目	
-5	"	第④-1層	須恵器	甕		6.6		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	底部と体部の界線が明確
-6	"	第④-1層	須恵器	甕				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	底部と体部の間に界線 底部に灰被る
-7	図版28	第④-1層	須恵器	甕				内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘラ	底部付近高台 底部と体部の界線が明確 体部外側に斜格子文及び1条の沈線
-8	"	第④-1層	須恵器	高环				内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	底部に小円形状透かし
-10	"	第④-1層	須恵器	高环		(3.5)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	脚部に透かしあり 外面上に2条の沈線
-11	図版27	第④-1層	須恵器	高环		(8.4)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	脚部に透かしあり 外面上に2条の沈線
-12	図版26	第④-1層	須恵器	模瓶		10.6		内: 調整不明 外: 調整不明	内: 調整不明 外: 調整不明	脚部外側に1条の沈線 脚部2方向に台形透かし
-13	"	第④-1層	須恵器	模瓶				内: 青波波、ナデ 外: 平行タキ、カキ目	内: 青波波、ナデ 外: 平行タキ、カキ目	
-14	"	第④-1層	土師質土器	小皿		(5.0)		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	底部外側に回転糸切
-15	"	第④-1層	土師質土器	甕		5.2		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	

説明番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	手法の特徴		備考
								内: 回転ナデ	外: 回転ナデ	
59-16	四版28	第④-1層	土器質土器	壺		5.6		内: 回転ナデ	外: 回転ナデ	底部外面に凹凸系切
-17	"	第④-1層	白磁	小皿	(10.6)			内: 施釉	外: 施釉	壁部と内面見込の間に界線
-18	"	第④-1層	白磁	四耳壺				内: 露胎	外: 施釉	肩部内面に若干の施釉が流れ込む
-19	"	第④-1層	白磁	碗		4.9		内: 施釉	外: 施釉	施釉に若干入る
-20	"	第④-1層	白磁	壺				内: 施釉	外: 施釉	内面見込5箇所に珍目積み
-21	"	第④-1層	青磁	碗		4.6		内: 施釉	外: 施釉、露胎	外面釉漬に若干入る
-22	"	第④-1層	青磁	碗		5.0		内: 施釉	外: 施釉、露胎	高台置付及び高台内側胎ハギ
-23	"	第④-1層	青磁	蝶花皿	(13.6)			内: 施釉	外: 施釉	高台置付及び高台内側胎ハギ
-24	"	第④-1層	青磁	蝶花皿				内: 施釉	外: 施釉	釉漬に貯入る
-25	"	第④-1層	青磁	碗		(5.5)		内: 施釉	外: 施釉、露胎	内面施文、口縁部端部取り
-26	"	第④-1層	青磁	碗	(16.0)			内: 施釉	外: 施釉	器壁外方に朱の界線
-27	"	第④-1層	青磁	碗	(14.4)			内: 施釉	外: 施釉	内面見込及び外面に諸文
-28	"	第④-1層	空器系陶器	壺or 盤				内: 指頭圧痕	外: 調整不明	筆運弁文
-29	"	第④-1層	備前焼	壺	(29.9)			内: ナデ	外: ナデ	高台内側圓鉗
59-1	"	第④-1層	備前焼	壺				内: ナデ	外: ナデ	内面に1單位11条以上の
-2	"	第④-1層	備前焼	壺		(24.4)		内: ナデ	外: ナデ、ヘラケズリ	縫目
-3	"	第④-1層	瀬戸焼	皿		(6.2)		内: 施釉 (灰胎)	外: 路階 (灰胎)	口縁部に注口
-4	"	第④-1層	瀬戸焼	皿		(5.4)		内: 施釉 (灰胎)	外: 施釉 (灰胎)	底部内面に施被る
-5	"	第④-1層	瀬戸焼	天目	茶漬	(12.4)		内: 施釉 (鐵胎)	外: 施釉 (鐵胎)	内面に自然釉
-6	"	第④-1層	中国磁器	天目				内: 施釉 (鐵胎)	外: 施釉 (鐵胎)	器底外面及び底部界面界
-7	"	第④-1層	瓦質土器	壺				内: 調整不明	外: 調整不明	明削
-8	"	第④-1層	瓦質土器	火鉢		(13.9)		内: 回転ナデ	外: ハケ目	内面に1位目以上
-9	"	第④-1層	在地土器	壺		(27.6)		内: ナデ	外: ナデ	内面に縫目
-10	"	第④-1層	在地土器	壺		(12.3)		内: ナデ	外: ナデ	
-11	"	第④-1層	在地土器	壺				内: 回転ナデ、指頭圧痕	外: 回転ナデ、スタンプ文	
-12	"	第④-1層	在地土器	香炉		(14.0)		内: 回転ナデ	外: 回転ナデ、スタンプ文	底部外面に小型の脚を貼付
-13	"	第④-1層	在地土器	火鉢				内: 調整不明	外: ヘラミガキ	
-14	"	第④-1層	青花	皿				内: 施釉	外: 施釉、露胎	内外面に染付
60-1	四版28	第⑤層	寄生土器	高壺				内: ヘラケズリ	外: 施釉	高台輪ハギ
-2	"	第⑤層	土師器					内: ナデ	外: ナデ	内外面に21条以上の突凹線
-3	"	第⑤層	土師器		2.9			内: ナデ	外: ナデ	ミニチュア土器
-4	"	第⑤層	土師器	低鉢		3.0		内: ナデ	外: ナデ、指頭圧痕	手捏成形
-5	"	第⑤層	土師器	壺		(22.5)		内: 調整不明	外: ナデ	脚部に小円形状の穿孔
-6	"	第⑤層	土師器	壺				内: ナデ、ヘラケズリ	外: ナデ	
-7	"	第⑤層	土師器	瓶				内: 調整不明	外: ヘラミガキ	扁平角型
-8	"	第⑤層	土師器	瓶				内: 調整不明	外: ヘラミガキ、指頭圧痕	柱状型
										粘土の接合部残る

探査番号	写真	出土地点	層別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴		備考
								内	外	
60-9	図版29	第5層	土師器	瓶				調整不明 外・ヘラミガキ		
-10	"	第5層	土師器	高杯				調整不明 外・調整不明		
-11	"	第5層	土師器	高杯				指讀圧痕 外・指讀圧痕		
-12	"	第5層	土師器	高杯		(12.5)		内・ナデ 外・ナデ、ヘラミガキ		
-18	"	第5層	土師器	高杯			29.8	内・ナデ、ヘラケズリ 外・ナデ		底外面にヘラミガキ調理?
61-1	"	第5層	赤彩土器	高杯				調整不明 外・調整不明		外面に赤彩
-2	"	第5層	須恵器	环皿	(14.0)			内・回転ナデ 外・西転ナデ		底外面に1条の棱
-3	"	第5層	須恵器	环皿	(12.8)			内・回転ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		
-4	"	第5層	須恵器	环皿	(9.8)		3.6	内・回転ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画にヘラ記号
-5	"	第5層	須恵器	环身	(13.0)		2.9	内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		
-6	"	第5層	須恵器	环身	(11.3)			内・回転ナデ 外・回転ナデ		
-7	"	第5層	須恵器	环身	(12.5)			内・回転ナデ 外・回転ナデ		
-8	"	第5層	須恵器	瓶		6.0		内・西転ナデ 外・西転ナデ		底外面に回転or静止糸切 内面見込が鏡状にナデ上がる 底外部面に回転糸切
-9	"	第5層	須恵器	环	(11.0)	6.6	4.3	内・回転ナデ 外・回転ナデ		
-10	"	第5層	須恵器	环		6.5		内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		底外面に回転糸切
-11	"	第5層	須恵器	环		(7.4)		内・回転ナデ 外・西転ナデ		底外部面付け高台
-12	"	第5層	須恵器	环		(9.7)		内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		底外部面付け高台
-13	"	第5層	須恵器	环	(9.5)	(5.9)	4.6	内・西転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		底外部面付け高台
-14	"	第5層	須恵器	环		8.4		内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ切り		底外部面西転ヘラ切り後、 付け高台、高台番付に沈線
-15	"	第5層	須恵器	环		8.0		内・回転ナデ、ナデ 外・西転ナデ、回転ヘラ		底外部面回転ヘラ後、 付け高台
-16	"	第5層	須恵器	环		8.0		内・回転ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ切り		底外部面回転ヘラ切り後、 付け高台、高台見込に「う」記号
-17	"	第5層	須恵器	环		6.4		内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外部面回転ヘラ後、 付け高台に凹面
-18	図版30	第5層	須恵器	环	(18.2)	10.6	6.2	内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		底外部面回転ヘラ後、 付け高台番付に凹面
-19	図版29	第5層	須恵器	蓋	(17.4)	11.4	4.2	内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外部面回転糸切後、 付け高台
-20	"	第5層	須恵器	鉄鋤形 須恵器	(15.8)			内・回転ナデ 外・回転ナデ		口部内部に4条の沈線
-21	図版30	第5層	須恵器	环	(13.1)	(10.2)	3.1	内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外部面に回転糸切
-22	"	第5層	須恵器	环	(12.6)	(8.5)	3.8	内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外面に回転ヘラ切り?
-23	"	第5層	須恵器	皿	(15.2)	(12.4)	2.1	内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ		底外部面回転糸切後、 回転ナデ 器壁と底部の界線が等離
-24	図版29	第5層	須恵器					内・回転ナデ 外・ナデ		北手貼付
-25	"	第5層	須恵器	鉢		(10.8)		内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外部面回転糸切 外側に剥突状工具痕
-26	"	第5層	須恵器	环or蓋		(15.5)		内・回転ナデ 外・回転ナデ		
-27	図版30	第5層	須恵器	円筒狀	(11.5)	(14.0)	4.7	内・回転ナデ 外・回転ナデ		底外面見込に多型の自然輪 輪形に2種類の透かし
62-1	"	第5層	須恵器	蓋		13.7	5.3	内・回転ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画に小型の掻み貼付
-2	"	第5層	須恵器	蓋				内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画にヘラ削り出し による小型の掻み
-3	"	第5層	須恵器	蓋				内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画に掻み貼付
-4	"	第5層	須恵器	蓋				内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画に扁平宝珠状彫 み貼付
-5	"	第5層	須恵器	蓋				内・回転ナデ、ナデ 外・回転ナデ、回転ヘラ		天井部外画に扁平宝珠状彫 み貼付
-6	"	第5層	須恵器	蓋		14.4	3.3	内・回転ナデ 外・回転ナデ		天井部外画に縦状彫み貼付

辨認番号	写真	出土地点	種別	器種	口径	底径	器高	手法の特徴	備考
62-7	図版30	第5層	須恵器	蓋				内：回転ナデ 外：四輪ナデ	天井部外面に輪状撲付 撲み跡部に沈線
-8	"	第5層	須恵器	蓋		4.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
-9	"	第5層	須恵器	蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-10	"	第5層	須恵器	蓋	(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	口縁部に墨焼痕
-11	"	第5層	須恵器	蓋		3.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	肩部外面に刺突文及び上下各1条の波線 肩部～体部の界線上に穿孔
-12	"	第5層	須恵器	蓋				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	内面に粘土塊付着 外圍にタール付着
-13	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、指領压痕 外：回転ナデ、指領压痕	
-14	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-15	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-16	"	第5層	須恵器	高环	9.8			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-17	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部上部2方向に輪状透かし 脚部下部透かし？及び2条の波線
-18	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部2方向に輪状透かし 脚部～脚部外へラ記号
-19	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部3方向に輪状透かし
-20	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部2方向に透かし
-21	"	第5層	須恵器	高环	(8.7)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部2方向に輪状透かし
-22	"	第5層	須恵器	高环	8.4			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	
-23	"	第5層	須恵器	高环	(16.7)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	脚部2方向に輪状透かし
-24	"	第5層	須恵器	高环	(10.1)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部に2条の沈線、2段の透かし（上段線状、下段台形） 器底部内面にへラ記号
-25	"	第5層	須恵器	高环				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	脚部2方向に台形透かし
-26	"	第5層	須恵器	高环	(23.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	透かし下方に2条の沈線
-27	"	第5層	須恵器	平底	(13.7)			内：西輪ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転ヘラ	口縁部渦形成後貼付
63-1	"	第5層	須恵器	蓋				内：ナデ 外：ナデ	
-2	"	第5層	須恵器	蓋及び 高环				内：青海波 豊外：平行タタキ	高台付环と鼓腹
-3	"	第5層	須恵器	蓋				内：単輪文 外：平行タタキ	
-4	図版31	第5層	須恵器	蓋	(20.2)			内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ	肩部外面に小円形状のスタンプ文及び多量の自然胞
-5	図版30	第5層	須恵器	蓋				内：ナデ 外：ナデ	頭部下内面に粘土の接合痕
-6	図版31	第5層	須恵器	蓋	21.0			内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ、カギ目	
-7	図版30	第5層	須恵器	蓋	(9.4)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に2条の沈線
-8	図版31	第5層	須恵器	蓋	(10.5)			内：ナデ、青海波 外：ナデ、平行タタキ、回転ナデ	底面外付け高台
-9	"	第5層	須恵器	蓋	(10.0)			内：ナデ 外：ナデ、平行タタキ、回転ナデ	底部外面付け高台
-10	図版30	第5層	須恵器	蓋				内：ナデ、青海波 外：平行タタキ、カギ目	粘土の接合痕が残る
-11	"	第5層	須恵器	蓋				内：ナデ 外：ナデ	内面に金属滓付着 外面上に多量の裂痕 断面に空泡
-12	"	第5層	青磁	碗				内：施釉 外：施釉	施釉に貪入する 外面上に銀線の網溝分 上唇から下唇への混入の可能性大
-13	"	第5層	側面焼	陶鉢				内：ナデ 外：ナデ	内面に1单位10条の横目 上唇から下唇への混入の可能性大
64-1	図版31	第5層	瓦質火 鉢洗鉢	奈良火 鉢洗鉢	(28.0)			内：ナデ 外：ナデ	底部外側に糊貼付 外面上に衆の突宍貼付 上唇から下唇への混入の可能性大
65-1	"	第5-0層	赤彩土器	蓋	(20.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	外面上に赤色

探査番号	写真	出土地点	種別	基種	口径	底径	器高	手法の特徴		備考
								内	外	
65-2	四版31	第5-0層	土師器	甕	(21.2)			ナデ、ヘラケズリ ナデ		
-3	"	第5-0層	土師器	甕	(29.4)			ナデ、ヘラケズリ ナデ		
-4	"	第5-0層	土師器	甕				ナデ、ヘラケズリ ナデ		
-5	"	第5-0層	土師器	高环				ナデ ナデ		脚部外面にヘラミガキ?
-6	"	第5-0層	土師器	高环				調理不明 ナデ		
-7	"	第5-0層	赤彩土器	高环		9.5		ナデ ナデ		脚部外面に赤彩
-8	"	第5-0層	赤彩土器	高环				ナデ ナデ		器部外面に赤彩
-12	"	第5-0層	土師器	甕?				ナデ、ヘラケズリ ナデ		
-13	"	第5-0層	赤彩土器	高环				調理不明 ナデ		外面に赤彩
-14	"	第5-0層	赤彩土器	高环				ナデ ナデ		外面に赤彩
-15	"	第5-0層	須恵器	环甕				回転ナデ、ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		天井部外面にヘラ記号 肩部外面に1条の稜
-16	"	第5-0層	須恵器	环甕	(12.9)		3.5	回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		肩部外面に1条の稜 口縁部底部内側に沈線
-17	"	第5-0層	須恵器	环甕	(12.8)			回転ナデ 回転ナデ		肩部外面に1条の稜 内側に沈線
-18	"	第5-0層	須恵器	环身	(9.4)			回転ナデ 回転ナデ		
-19	"	第5-0層	須恵器	环身	(11.4)		2.8	回転ナデ 回転ナデ		内面見込にヘラ記号
-20	"	第5-0層	須恵器	环身				回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ切り		底部外面にヘラ記号
-21	"	第5-0層	須恵器	高环				回転ナデ 回転ナデ		外面にヘラ記号
-22	"	第5-0層	須恵器	高环				回転ナデ 回転ナデ		脚部3方向に透かし
-23	"	第5-0層	須恵器	环		(7.3)		回転ナデ、ナデ 回転ナデ		
-24	"	第5-0層	須恵器	蓋	(16.6)		3.0	回転ナデ、ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		天井部外面に扁平宝珠状掘み
-25	"	第5-0層	須恵器	环			(10.2)	調理不明 回転ナデ		底部外面付け高台
66-1	"	第5-0層	須恵器	蓋	(15.4)			回転ナデ 回転ナデ		
-2	"	第5-0層	須恵器	甕				回転ナデ、ナデ 回転ナデ、ナデ		底部外面付け高台
-3	"	第5-0層	土師質土器	环		(8.6)		回転ナデ 回転ナデ		底部外面付け高台
67-1	四版32	第5-1層	赤彩土器	高环				ナデ ナデ		脚部外面に赤彩
-2	"	第5-1層	須恵器	甕		5.2		回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		底部外面静止糸切
-3	"	第5-1層	須恵器	环甕	(13.0)		4.0	回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		脚部外面に1条の稜 口縁部内側に1条の沈線
-4	"	第5-1層	須恵器	蓋		11.5	2.5	回転ナデ、ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		天井部外面に掘み
-5	"	第5-1層	須恵器	皿	17.7	13.7	3.3	回転ナデ、回転ヘラ 回転ナデ、回転ヘラ切り		底部外面付け高台
-6	"	第5-1層	須恵器	蓋	(12.8)			回転ナデ、青海波 回転ナデ、カキ目、平行タキ		
-7	"	第5-1層	須恵器	甕		(10.8)		回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		底部内面にハゲ状の痕跡 肩部~体部、体部~底部の 間に明確な界線 肩部に把手、多量の自然物 体部外面下方に飛沫状の疣
-8	"	第5-1層	須恵器	蓋		5.0		回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		
68-1	"	第5-2層	土師器	甕				ナデ ナデ		
-2	"	第5-2層	土師器	甕 or 壺	(26.8)			ナデ、ヘラケズリ ナデ		
-3	"	第5-2層	須恵器	环	(16.7)	11.4	6.0	回転ナデ 回転ナデ、四輪ヘラ		底部外面付け高台
-4	"	第5-2層	須恵器	环	(11.8)	8.3	4.1	回転ナデ 回転ナデ、回転ヘラ		底部外面付け高台 外面に自然物付着
-5	"	第5-2層	須恵器	环			(7.3)	回転ナデ 回転ナデ		底部外面付け高台
-6	"	第5-2層	須恵器	高环			8.6	回転ナデ、ナデ 回転ナデ		

探査番号	写真	出土地点	種別	基盤	口径	底深	器高	手法の特徴	備考
69-1	図版32	第5層	土師器	壁	(16.4)			内：ナデ 外：ナデ	
-2	//	第6層	土師器	壁	(15.6)			内：調査不明 外：ナデ	内：ハケ目調査？
-3	//	第6層	土師器	壁				内：ナデ 外：ナデ	
-4	//	第6層	土師器	壁				内：調査不明 外：ヘラミガキ	把手
-5	//	第6層	土師器	壁				内：調査不明 外：調査不明	底面に工具痕
-6	//	第6層	須恵器	环底	(13.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、四輪ヘラ、ハケ目、ナデ	外面に1条の縦
-7	//	第6層	須恵器	环底				内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に1条の縦
-8	//	第6層	須恵器	环底				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ	外面に1条の縦
-9	//	第6層	須恵器					内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-10	//	第6層	須恵器	高环				内：回転ナデ 外：回転ナデ	側面3方向に線状透かし
-11	//	第6層	須恵器	环身	(10.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	
-12	//	第6層	須恵器	环		(5.6)		内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
70-1	図版33	北側排水路	土師器	壁	(28.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-2	//	北側排水路	土師器	壁	23.2			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	//	北側排水路	土師器	壁	(25.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-5	//	北側排水路	須恵器	环底	(12.7)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に1条の縦
-6	//	北側排水路	須恵器	环身	(12.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	
71-1	//	東側排水路	土師器	壁				内：ヘラケズリ 外：ハケ目	底部平坦面に虎形台の範囲
-2	//	東側排水路	土師器	高环				内：ヘラミガキ、ナデ 外：ヘラミガキ	
-3	//	東側排水路	土師器	高环		(8.6)		内：指頭圧痕 外：指頭圧痕	
-4	//	東側排水路	土師器	壁				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-5	//	東側排水路	土師器	壁	19.8			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-6	//	東側排水路	土師器	壁	(23.2)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	体部外面に焼付層
-7	//	東側排水路	土師器	壁	(24.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-8	//	東側排水路	土師器	壁	(18.8)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
-9	//	東側排水路	土師器	壁	(29.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
72-1	図版34	東側排水路	土師器	壁	(29.3)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	口縁部内外面に焼付層
-2	//	東側排水路	土師器	壁	(28.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	
-3	//	東側排水路	土師器	壁	(28.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	//	東側排水路	須恵器	环身				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面にヘラ記号
-5	//	東側排水路	須恵器	环身				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	底部外面にヘラ記号
-6	//	東側排水路	須恵器	环				内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部外面付け高台
73-1	//	南側排水路	土師器	壁	(13.6)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ	
74-1	//	埋瓦土	土師器	壁	(23.2)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	断面に粘土の接合痕
-2	//	埋瓦土	土師器	壁				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-3	//	埋瓦土	土師器	壁	(25.4)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-4	//	埋瓦土	土師器	高环	14.9			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目	
-5	//	埋瓦土	赤彩土器	高环		11.4		内：ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外：ナデ、ハケ目、指頭圧痕	赤彩あり
-6	//	埋瓦土	須恵器	环底	(10.0)		3.7	内：回転ナデ、回転ヘラ	

埠留番号	写真	出土地点	種別	部構	口径	底径	器高	手法の特徴		備考
								内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ 内：ナデ 外：ナデ	外側に凹痕	
74-7	図版34	燒土	弥生土器	高环 (13.8)				内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ 内：ナデ 外：ナデ	外側に凹痕	
75-1	"	造成土	弥生土器					内：回転ナデ 外：ナデ	把手	
-2	"	造成土	弥生土器	筐				内：回転ナデ 外：ナデ	把手	
-3	"	造成土	土師器	筐				内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ		
-4	"	造成土	土師器	筐	(29.7)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ		
-5	"	造成土	土師器	筐	(32.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ		
-6	"	造成土	須恵器	筐				内：ナデ、車輪文 外：ナデ、タタキ		
-7	"	造成土	須恵器	袋or 袋物			6.2	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ		
-8	"	造成土	青磁	筐	(18.4)			内：施釉 外：施釉	施釉に貫入る 内外部無文、口縁端反	
-9	"	造成土	青磁	筐				内：施釉 外：施釉	外面施文、口縁部端反	
76-1	図版35	昭和排水	須恵器	环			8.3	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ 内：回転ナデ 外：回転ナデ		
-2	"	昭和排水	土師質土器	小皿	(7.0)	5.2	1.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	底部に静止糸切	
77-1	"	耕土	土師器	筐or筐	(32.0)			内：ナデ、ヘラケズリ 外：ナデ、ハケ目		
-2	"	耕土	須恵器	筐	(10.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	外面に1条の沈線	
-3	"	耕土	須恵器	环身	(10.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ		
78-1	"	出土地不明	須恵器	筐			3.8	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ 内：ナデ 外：調査不明	周縁下に波状文及び穿孔 内面に1単位6条以上の捲目	
-2	"	出土地不明	備前焼	筐鉢				内：施釉(灰釉)、圓輪 外：施釉(灰釉)、圓輪	施釉に貫入る	
-3	"	出土地不明	瀬戸焼	鉢皿						

出土遺物観察表（土器以外）

件名番号	写真	出土地点	種別	器種	縦長	横幅	厚	備考
12-4	図版19	S D O 6	土師器	土製支脚				内：ヘラケズリ、外：ナデ、指頭圧痕
17-6	図版24	S D O 3	土師器	土製支脚		10.3		内：ヘラケズリ、外：ヘラミガキ、指頭圧痕 穿孔は貫通
-7	"	S D O 3	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ、ハケ目 穿孔は貫通、突起2方向
18-4	図版25	大溝①	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ
57-7	図版27	第④-1層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔
-8	"	第⑤-1層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 底部焼入
-9	"	第④-1層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ
-10	"	第④-1層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通
58-8	"	第④-1層	須恵器	土製円盤	6.3	6.2	1.5	内：回転ナデ、指頭圧痕 外：回転ナデ
59-15	図版28	第⑤-1層	布目瓦	丸瓦				凹面：布目 凸面：調整不明
-16	"	第④-1層	布目瓦	平瓦				凹面：布目 凸面：調タキ、端角に押圧痕
-17	"	第④-1層	土師器	土鍤	3.6	1.5	1.5	外：ヘラミガキ
-18	"	第④-1層	土師器	羽口				側面2か所に穿孔 多層の自然釉付着
-19	"	第④-1層	石	磁石	5.0	5.0	1.2	4面以上を磁面として使用
-20	"	第④-1層	石	石鏡	6.9	4.7	4.3	内凹球状 中程で帯状に浅く縫込
60-13	図版29	第⑤層	土師器	土製支脚		(7.0)		内：ヘラケズリ
-14	"	第⑤層	土師器	土製支脚		(11.1)		外：指頭圧痕
-15	"	第⑤層	土師器	土製支脚				内：ナデ 外：ヘラミガキ
-16	"	第⑤層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通
-17	"	第⑤層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通、突起2方向
64-2	図版31	第⑤層	布目瓦	平瓦				凹面：布目 凸面：調タキ
-3	"	第⑤層	布目瓦	丸瓦				凹面：布目 凸面：調整不明
-4	"	第⑤層	石	磁石	8.9	3.7	2.6	1面を底面として使用
-5	"	第⑤層	石鏡	石洋	16.4	13.4	2.9	打製
65-9	"	第⑤-0層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 底部上墨
-10	"	第⑤-0層	土師器	土製支脚				外：ヘラミガキ 穿孔は貫通、底部焼込
-11	"	第⑤-0層	土師器	土製支脚		(16.6)		内：ナデ 外：ナデ、指頭圧痕
68-7	図版32	第⑤-2層	石	磁石	8.4	4.0	3.6	4面を底面として使用
70-4	図版33	北側排水路	土師器	土製支脚		11.2	14.8	外：ヘラミガキ、指頭圧痕 穿孔あり、底部焼込
72-7	図版34	東側排水路	石	磁石	12.1	5.6	5.3	3面以上を底面として使用



調査前風景



ロライン東側土層堆積状況

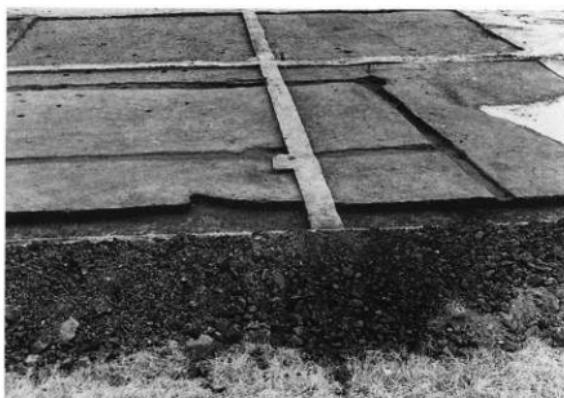


暗渠検出状況

図版2



暗渠完掘状況1
(杭列はハデ木?)



暗渠完掘状況2

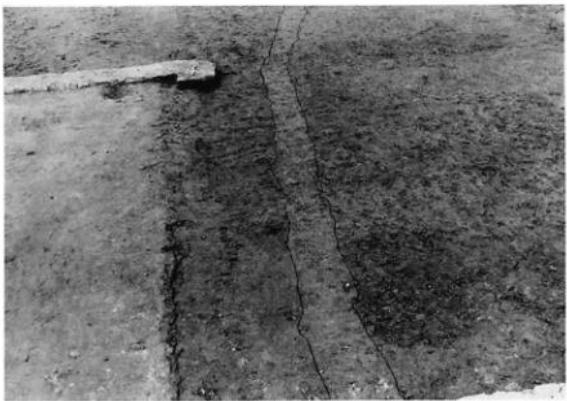


SD02 土層堆積状況

図版 3



SD 02 完掘状況



SD 01 検出状況



SD 01 土層堆積状況 1

図版4



SD01 土層堆積状況2



SD01



SD07 完掘状況

図版 5



SD 06 土層堆積状況 1



SD 06 土層堆積状況 2



SD 06 遺物出土状況

図版 6



SD06 完掘状況



SD03 土層堆積状況 1



SD03 土層堆積状況 2



SD03 遺物出土状況 1



SD03 遺物出土状況 2



SD03 遺物出土状況 3

図版 8



SD 03 遺物出土状況 4



SD 03 完掘状況



大溝 01



大溝 01 完掘状況



調査風景



SB 01 柱根出土状況

図版10



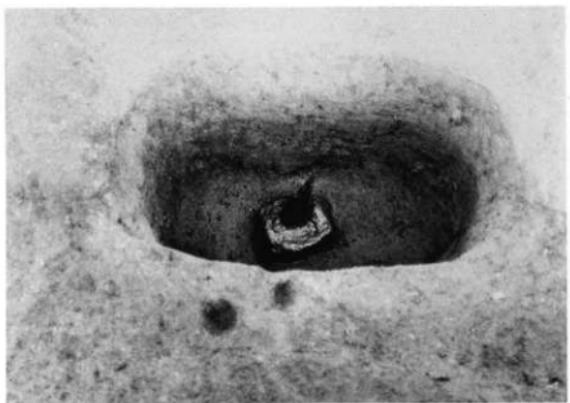
SB01・SB03完掘状況1



SB01・SB03完掘状況2



SB02完掘状況



SB04柱根出土状況



SB04完掘状況1



SB04完掘状況2

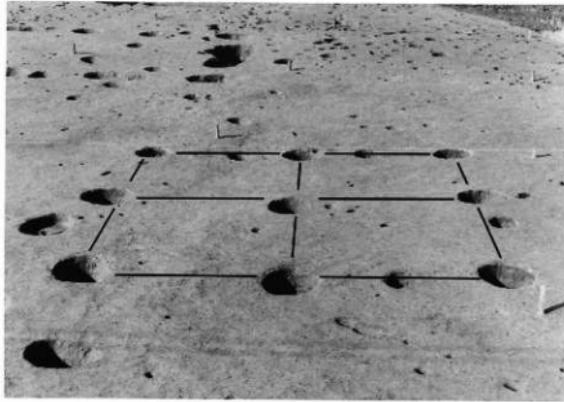
図版12



SB05完掘状況



SB06完掘状況



SB07完掘状況



SB08柱根出土状況



SB08完掘状況

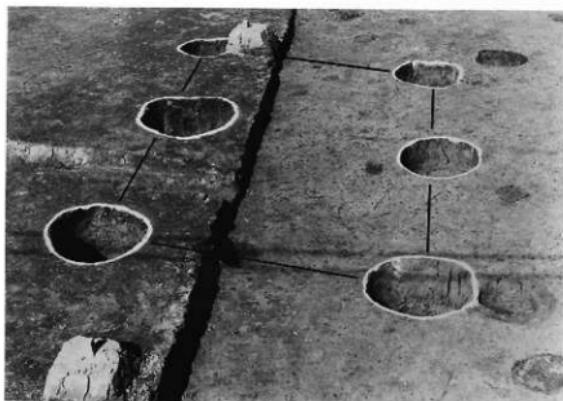


SB09柱根出土状況

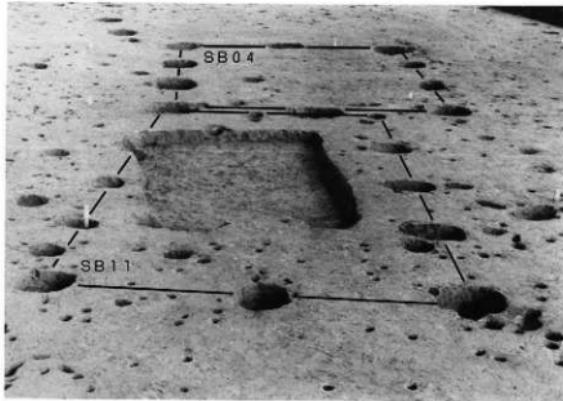
図版14



SB09完掘状況



SB10完掘状況



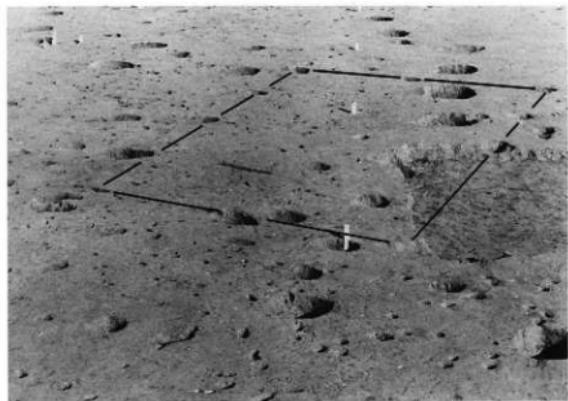
SB11・SB04完掘状況



SB12・SB16完掘状況



SB13完掘状況



SB14完掘状況

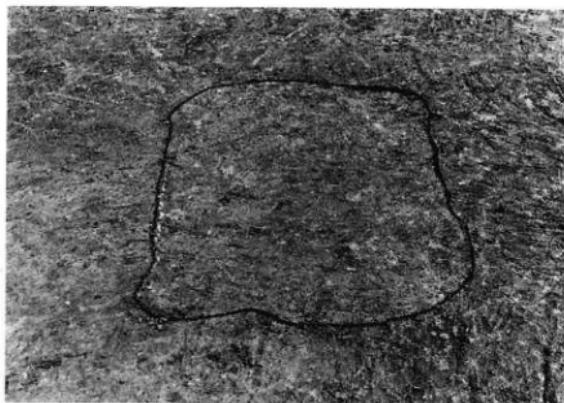
図版16



S X 0 1 炭検出状況



S X 0 1 完掘状況



S X 0 2 検出状況



S X 0 2 土層堆積状況



S X 0 2 焼土検出状況



S X 0 2 完掘状況

図版18



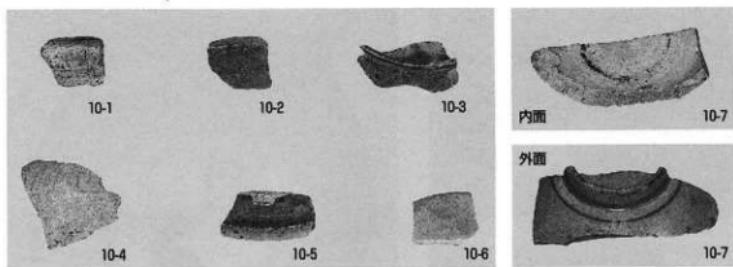
S X 0 3 炭検出状況



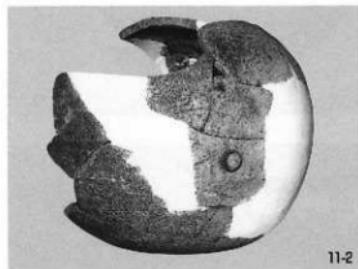
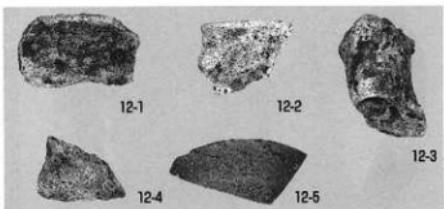
S X 0 4 遺物出土状況



調査区西侧遺構完掘状況



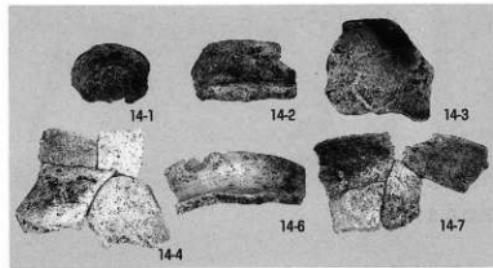
SD 02 出土遺物



SD 01 出土遺物



SD 06 出土遺物

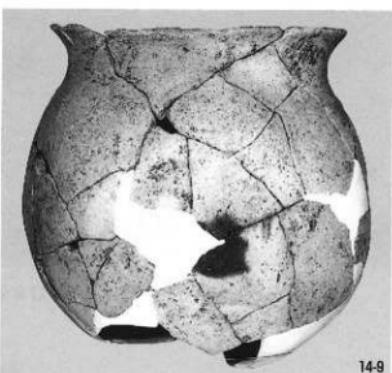


SD 03 出土遺物

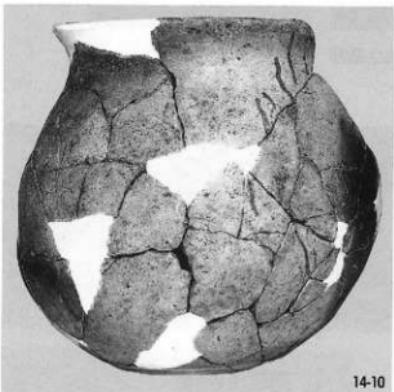
図版20



14-8



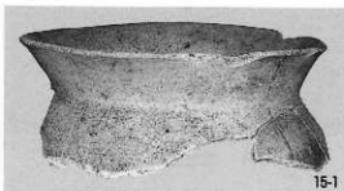
14-9



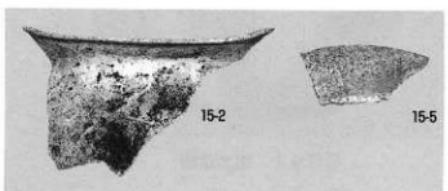
14-10



14-11



15-1

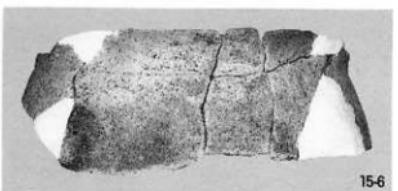


15-2

15-5



15-3

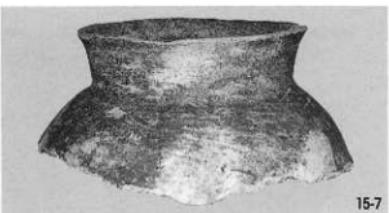


15-6

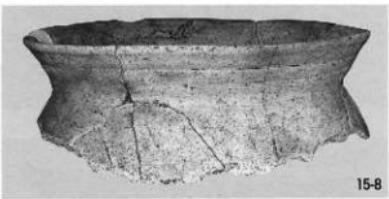
SD03 出土遺物



15-4



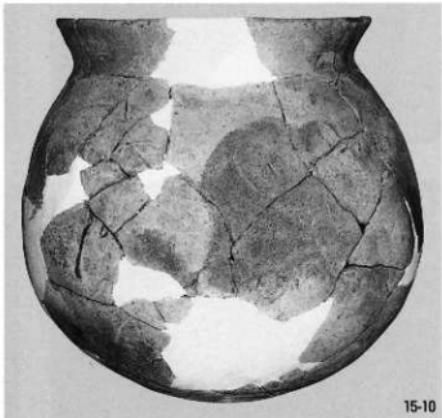
15-7



15-8



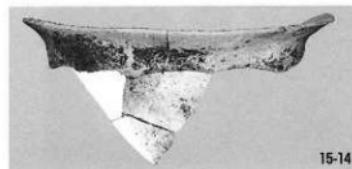
15-9



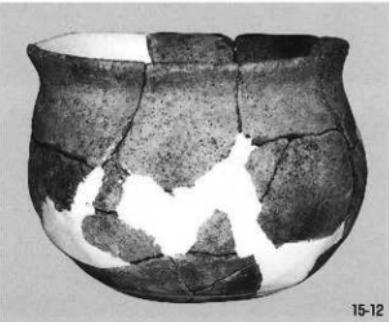
15-10



15-11



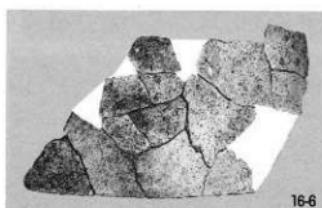
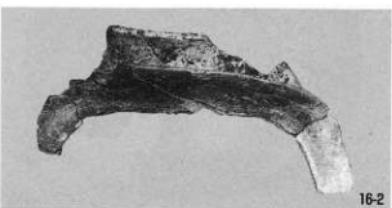
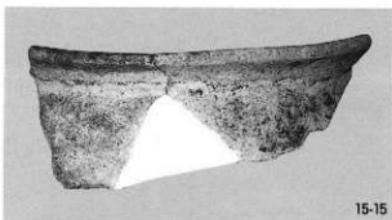
15-14



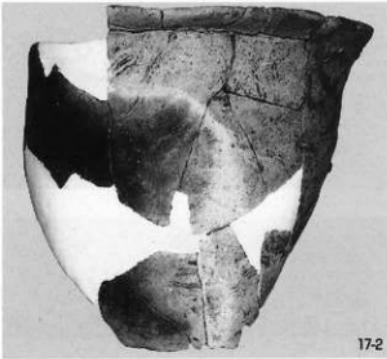
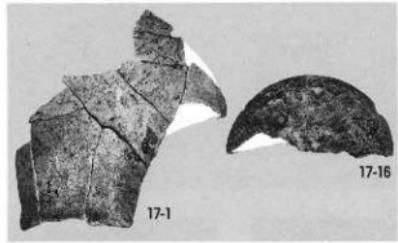
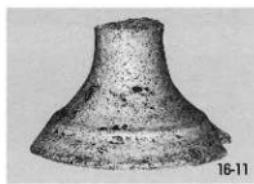
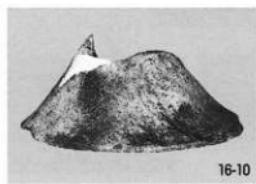
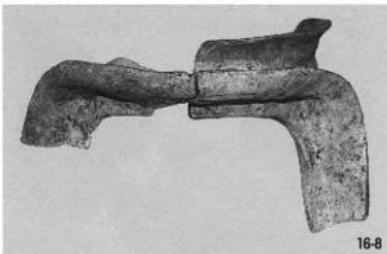
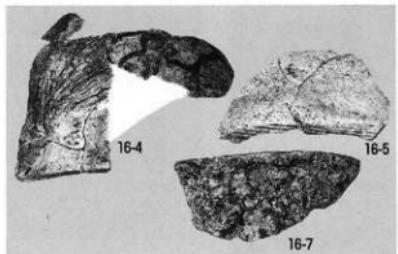
15-12

SD03 出土遺物

図版22



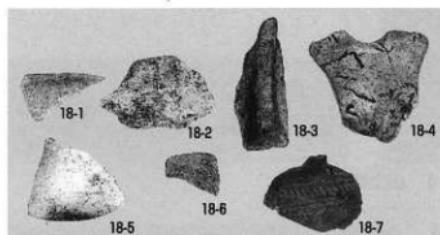
SD 03 出土遺物



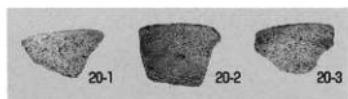
図版24



SD03 出土遺物



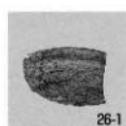
大溝01 出土遺物



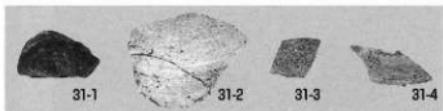
SB01 出土遺物



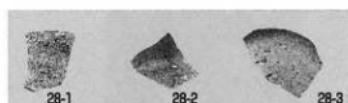
SB04 出土遺物



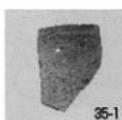
SB05 出土遺物



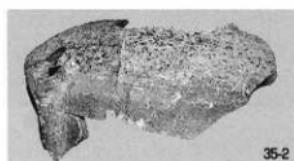
SB08 出土遺物



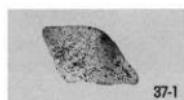
SB06 出土遺物



SB11 出土遺物



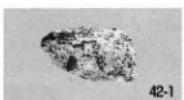
35-2



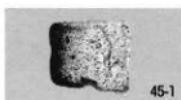
SB12 出土遺物



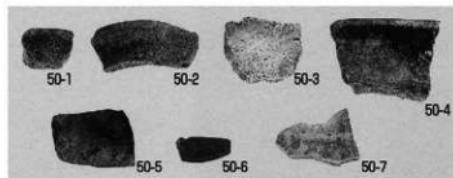
SB13 出土遺物



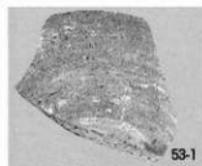
SB15 出土遺物



SA01 出土遺物

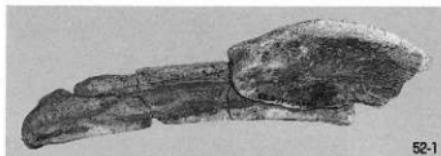


SE01 出土遺物

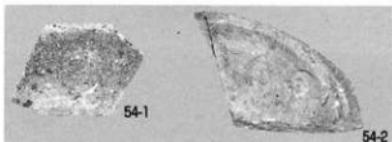
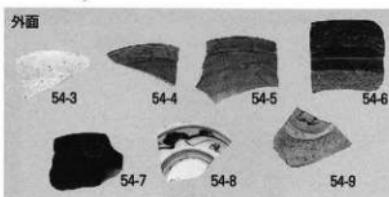
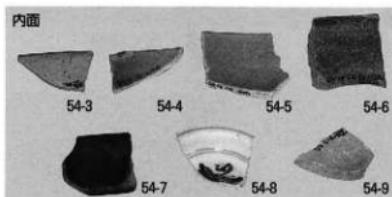


SX05 出土遺物

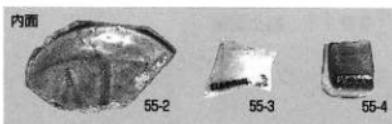
図版26



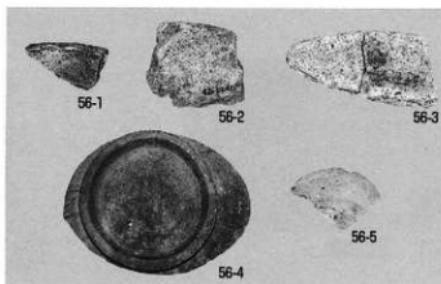
SX 04 出土遺物



第②層 出土遺物



第③層 出土遺物



第④層 出土遺物